

授業科目名	幼児理解	担当教員名	美越 芳枝
必修/選択	必修(幼稚園教諭2種免許/保育士資格)	開講学年・学期	2年 後期(年間開講数 1講座)
科目区分	教職・保育に関する科目	単位数	1単位
施行規則に定める科目区分等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目-幼児理解の理論及び方法 保育の内容・方法の理解に関する科目(別表1)	授業方法/担当形態	演習 / 単独
		特記事項	※実務経験のある教員等による授業 保育所所長、保育士として長年にわたる実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。 ※「子どもの理解と援助」の指導内容を含む
授業の到達目標	<p>1-幼児理解の理論及び方法</p> <p>(1)幼児理解の意義と原理：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。</p> <p>①幼児理解の意義を理解している。</p> <p>②幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。</p> <p>③幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。</p> <p>(2)幼児理解の方法：幼児理解の方法を具体的に理解する。</p> <p>①観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。</p> <p>②個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。</p> <p>③幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。</p> <p>④保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</p> <p>2-子どもの理解と援助</p> <p>(1)保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達 や学びを把握することの意義について理解する。</p> <p>(2)子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。</p> <p>(3)子どもを理解するための具体的な方法を理解する。</p> <p>(4)子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する</p>		
授業の概要	<p>・保育の基本を踏まえ、子ども理解(幼児理解)の意義と重要性を学ぶ。</p> <p>・「子どもを理解する」意味とは何か。子どもが見せる姿や行為、育ちを読み取り理解するためには、どのような視点から何をとらえていく必要があるのか。</p> <p>また、「子どもを理解する視点やまなざし」を深め、より確かな「子ども理解にもとづいた援助」について、グループ討議や演習等により理解を深め保育の方法を追及していく。</p>		
テキスト	使用しない		
参考書・参考資料等	「平成29年告示幼稚園教育要領保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本」(株式会社チャイルド本社),資料としてプリントを配布し、毎回プリントを利用しながら授業を進める。		
成績評価の方法	○授業での積極的な取り組みの評価：20%○折々に提示する課題への取組と内容の評価：30%○定期試験：50%		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	幼児の遊び及び生活の実態に即した幼児理解の意義	(1)-①	
第2回	幼児の自己表現と受容する他者との関係	(1)-③	
第3回	幼児の協働性の育ちとそれを捉える視点	(2)-②	
第4回	幼児の発達や学びの過程を捉える視点	(1)-②,(1)-③	
第5回	気になる子どもの事例からの学びー個の育ちと集団の育ちよりー※情報機器あるいは視聴覚教材の使用	(2)-②,(2)-③	
第6回	気になる行動に対する保育者の対応と周囲の幼児の受け止め※情報機器あるいは視聴覚教材の使用	(2)-②,(2)-③	
第7回	観察・記録の方法と分析・考察の視点※情報機器あるいは視聴覚教材の使用	(2)-①,(2)-②	
第8回	演習：観察・記録の実際より※情報機器あるいは視聴覚教材の使用	(2)-①,(2)-②	
第9回	「幼児期の終わりにまで育ってほしい姿」と学びのつながり	(1)-②,(2)-②	
第10回	幼児の発達にかかわる様々な課題ー保育実践事例よりー※情報機器あるいは視聴覚教材の使用	(1)-①,(1)-②	
第11回	子育てに関わる現代的な課題の特徴ー事例よりー	(1)-①,(2)-④	
第12回	保護者の心情理解と家庭への支援の方法	(2)-③,(2)-④	
第13回	カウンセリングの基礎的な姿勢と方法	(2)-③,(2)-④	
第14回	演習：保護者対応のロールプレイング	(2)-③,(2)-④	

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第15回	園内の協力体制と専門機関等との連携、「幼児理解の理論及び方法」まとめ	(1)-①,(2)-③,(2)-④
定期試験	筆記試験	